

目次

- (1) OFIXからのお知らせ
 - 講演会及びキャリアカウンセリングの参加者募集
 - とんだばやしコミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集
- (2) 事業報告
 - 府内大学等留学生担当者意見交換会の実施
- (3) 防災特集
 - 災害時外国人支援に関する最近の動き
- (4) JICAからのお知らせ
 - JICAボランティア募集
- (5) 大阪府外国人情報コーナー
 - 中国語での相談の傾向
- (6) OFIX国際交流員レポート
 - 元気なフィリピン人

(1) OFIXからのお知らせ

■ 講演会及びキャリアカウンセリングの参加者募集

日本での就職を希望する就職活動中の府内大学等に在籍する留学生を対象とした「企業採用担当者・新社会人による講演及びキャリアカウンセリング」を実施します。企業が採用したいと考える留学生とは？ 企業採用担当者のお話と先輩のサクセスストーリーを聞くことができます。

参加については在籍校へお申し込みください。

日時：10月26日(土) 午前10時から午後5時
 講演：午前10時から キャリアカウンセリング：午後0時から
 場所：大阪府堺留学生会館オリオン寮 集会室
 最寄り駅はJR阪和線上野芝駅

※詳しくはOFIXホームページをご参照ください。

<http://www.ofix.or.jp/news.html#20130920>

■ とんだばやしコミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集 (OFIX 共催事業)

当財団では、市役所や学校などで地域の外国人の方々とのコミュニケーションの橋渡しをする、コミュニティ通訳ボランティアの養成を行っています。10月と11月にとんだばやし国際交流協会と共催で下記のとおり研修を開催します。

【日程】 10月12日(土) & 11月9日(土)
 午後1時から4時30分まで

【場所】 とんだばやし国際交流協会

【概要】 講義：「コミュニティ通訳ボランティアの心構え」
 「相談窓口の現場から」
 (※変更の可能性あり)

ワークショップ：通訳トレーニング、ロールプレイ等

【申込み】 E-mail、Fax、郵送でとんだばやし国際交流協会まで。10月4日(金) 必着(※定員15名、先着順)
 詳細は、<http://www4.kcn.ne.jp/~ticc/index.html>

(2) 事業報告

■ 府内大学等留学生担当者意見交換会の実施

8月28日(水)に大阪府堺留学生会館オリオン寮で府内大学等留学生担当者意見交換会を実施しました。府内の大学、専門学校14校のほかにも学生寮の留学生担当者など22名の方々にお集まりいただき、学校法人エール学園 入学支援事業本部 理事 本部長 崎村真氏より「留学生担当者間の情報共有の重要性」についての基調講演をいただきました。

その後、国民年金や国民健康保険加入についてや、留学生にとっては必ず必要となる住居問題について意見交換を行いました。国民年金や国民健康保険加入の指導については、大半の学校は問題なく指導できているという意見でしたが、なかにはケガや病気をした際に国民健康保険未加入でトラブルを訴えてくる留学生もいるという意見がありました。住居問題については退去する際の原状回復、各学校の宿舍情報や取り組み、問題点等について情報交換・共有を行いました。他にも留学生と地域住民との交流、災害時に備え避難訓練やハザ

ードマップの配付等を行うといった各学校の危機管理の取り組みについても話し合いました。オブザーバーとしてご参加頂いた 上田安子服飾専門学校 津川龍一氏からは、国民年金、



国民健康保険加入に関わる制度や退去時の原状回復に関わるガイドライン等についてのご説明もあり、参加者の皆様からはとても良い勉強になった。学校間

で情報交換、問題の共有をすることは大切であり今後もこのような機会を設けて欲しいといったご意見を頂きました。OFIXでは、今後も学校間の連携や交流等ネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えています。

■ 災害時外国人支援に関する最近の動き

(特活) 多文化共生マネージャー全国協議会 (NPO タブマネ)
事務局長 時光(とき ひかる)

◆NPO タブマネの最近の取り組み

全国の市町村、国際交流協会では、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、防災への関心が今以上に高まり、平成25年9月現在、当事務局に、20以上の団体から災害時外国人住民支援に関する研修相談、講師派遣依頼をいただいている。例えば「国際交流協会同士で災害時支援の協定は結んだものの、具体的に何をどうすればよいかわからない」、「関係機関との連携がしたく、そのための切っ掛けがほしい」など、地域の課題に対応するための様々な研修プログラムを当団体が提供している。また、県内市町村や関係団体を対象に、災害時に備えた体制づくり、役割分担を検討するある県主催のワークショップにも私をはじめ、NPO タブマネが講師として出講して、全国各地において災害時多言語支援センターの設置に備えた人材育成や地域防災計画への反映に向け、約300名の多文化共生マネージャーとともに取り組んでいる。



外国語で緊急時放送を体験する参加者の様子

そのベースとなっているのが、昨年度、財団法人自治体国際化協会(クリア)の委託事業として取り組んだ「災害時の多言語支援のための手引き2012」である。

◆最新版の災害時多言語支援のためのマニュアル

昨年度、NPO タブマネがクリアから委託を受け、「災害時の多言語支援のための手引き2012」を作成した。(詳細はクリアホームページPDF参考) この手引きは2007年7月に起きた新潟県中越沖地震の際に、設置された柏崎災害時多言語支援センターの活動を元に作成した「災害多言語支援

センター設置運営マニュアル2009」を改訂したものであり、2009年版利用者のご意見を参考にしながらより実践的な物に仕上げ、国際交流協会をはじめ、さらに国際分野にあまり馴染みのないその他の市町村職員等にとっても参考になれるよう工夫した。また、外国人住民の状況変化等を踏まえ、東日本大震災における支援活動、地域国際化協会による広域連携の取り組み、自治体と国際交流協会間での協定締結事例などの内容を新たに加えた。この手引きは、災害時の対応を事前にシミュレーションすることはもちろん、平時からの備えとして防災訓練や多言語支援センターの運営訓練のほか、多文化共生の推進や防災対策等をテーマとした人材育成の研修テキストとして使えるので、ぜひご活用いただきたい。

◆今後、地域で求められること

各地で開催されている研修会や多言語支援センター設置運営訓練をみて、まだまだ「外国人住民イコール災害時要援護者」、「日本社会が外国人住民を支援しなければならない」という発想をもっている地域、担当者が多いことを感じている。外国人住民は果たして災害時要援護者なのか、疑問に思う。確かに外国人住民は情報弱者という意味では要援護者グループに入るかもしれない。しかし、外国人住民は日頃より必要な防災知識を身につけ、さらにいざという時の正しい情報さえ得られれば、防災の担い手に十分なりえるという点においては他の要援護者と大きく違う。また、一部の外国人住民には確かに配慮が必要だが、来日年数が長く、例えば永住資格所有者など、日本の生活に慣れ親しんで、日頃から地域とのコミュニケーションもつ外国人住民が大勢いるのも事実だ。なかには、自ら自国民の手助けがしたい、日本社会に貢献したいと考えている意識の高い外国人住民が日本全国にいる。従来の外国人支援の考えを改め、むしろ日本語が話せないが、元気な外国人の若者、日本社会に溶け込んでいて頼りになれる外国人住民をどうやって活用できるのかを考える必要があるのではないだろうか。その視点から既存の防災事業を見直したり、外国人住民がもつ防災力を生かすための事業を企画したりするなど、外国人住民と共に取り組む防災という視点からの取り組みが今後求められているのではないかと思う。NPO タブマネはこれからも地域の皆さんと共に学びながら地域防災、多文化共生の地域づくりに取り組んでいきたい。

■ OFIX の災害時外国人支援の取組み

我が国は、残念ながら地震多発国の一つです。

日本で生まれ、育った私たちは、多かれ少なかれ地震体験があり、小さいころから訓練などに参加して一定の防災知識を持っています。しかし、世界では地震のない国・地域が多くあり、これらの国・地域から我が国を訪れ、在住している方々にとっては、未経験な事態に遭遇することとなります。

地震体験がなく、防災の予備知識がない外国人の方々が大地震にあった時、どのように行動すれば良いのかわからず、さらには、防災用語の難しい日本語が理解できず必要な情報が得られないため、更なる被害を受けたり、必要な支援が受けられない恐れがあります。

大阪府国際交流財団(OFIX)では、実際に災害が発生した時に、被災された外国人への支援が円滑に行えるように、日頃から関係機関と連携しながら外国人への防災意識の啓発、多言語支援するためのスタッフや支援ボランティアのスキルアップに努めています。

《広域連携》

- 近畿の5府県3政令市の地域国際化協会で構成する近畿地域国際化協会連絡協議会(近畿ブロック)では、会員協会間で災害時における外国人支援ネットワーク協定を締結し、災害発生時におけるスタッフや通訳ボランティアの派遣及び翻訳支援などの人材確保のための協力関係を構築しているとともに、災害時に迅速に対応できるよう平時から必要な研修・訓練に協力して取り組んでいます。
- 平成25年度は、近畿ブロック主催研修と会員協会との共催研修が5回計画されており、OFIXも共催研修の開催と他の研修への参加を予定しています。
- 近畿ブロックの取組みに引続き、全国6ブロック間で、災害時支援協定を締結すべく現在取組んでいます。

《地域との連携》

- 市町村や市町村国際交流協会と共催で、地域の外国人住民向け防災訓練や語学ボランティアを対象とした支援訓練を実施し、地域における災害時外国人支援体制構築に向けた取り組みを進めています。
- 平成24年度は、3協会1市と共催実施し、今年度も共催実施団体を募集しています。
- 府内3市の国際交流協会が中心となり、大阪国際交流センターとOFIXも参加している「国際交流協会ネットワークおおさか」主催で広域連携モデル事業として、協会スタッフを対象とした連続研修会と外国人住民や支援ボランティアを対象に大阪府北部・南部でそれぞれ避難所体験と多言語支援センター設置訓練を実施します。

2013/8/23, 8/30, 9/20 研修会(全3回)
2013/11/1, 11/23 演習(同じ内容を2か所実施)
2014/1/24 研修会(1か所実施)

1 研修会「やさしい日本語」による災害時の情報を伝える
2 研修会「外国人住民も含めた避難所運営とは?」
3 研修会「仙台市多言語支援センター」の取組みから
4 研修会「災害時外国人支援センター」の取組みから
5 研修会「災害時外国人支援センター」の取組みから

これらの取組みを踏まえて、大阪府内が大規模な震災に襲われた際に、大阪府・大阪市・府内市町村の国際交流協会が連携して外国人住民を支援する体制の構築を進めています。

《行政機関等との連携》

- 大阪府との連携はもちろん、在関西総領事館と連携した「防災ワークショップ」を今年度も11月19日(火)にマイドームおおさかにおいて実施を予定するなど、定期的に関係機関と災害に係る意見交換を実施しています。

《教育機関との連携》

- 留学生等に災害対応能力を身につけてもらうための避難所体験と、支援者のスキルアップを目指す多言語支援センター設置訓練を併せて行う「留学生等のための総合防災訓練」を6月29日に大阪府堺留学生会館オリオン寮にて実施しました。
- 東北地方の大学で東日本大震災時に留学生支援に奔走された担当者を講師にお招きし、今年度も「留学生担当者ワークショップ」を11月27日(水)にマイドームおおさかにて実施を予定しています。
- また、大学と共催で防災訓練を実施するなど、高等教育機関との連携を進めています。

《その他》

- 地震が起きたときの身の安全の守り方や、正しい避難の仕方を知ってもらうために、「外国人のための防災ガイド～地震に備えて～」を日本語を含む9言語で作成し、外国人への防災啓発に活用しています。

ガイドはこちら：http://www.ofix.or.jp/news.html#20130219_3

(4) JICA からのお知らせ

■ JICA ボランティア募集

JICAボランティアとは独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する事業です。自身の技術や経験を活かして開発途上国の人々とともに生活し、相互理解を図りながら彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を行う、海外でのボランティアです。ぜひ、あなたの技術や経験を活かしてみませんか?

◆応募資格

- 青年海外協力隊 (20歳~39歳の日本国籍を持つ方)
- シニア海外ボランティア(40歳~69歳の日本国籍を持つ方)

◆募集期間：2013年10月1日(火)~11月5日(火)

◆お問合せ先：

JICA関西ボランティア担当 TEL078-261-0341(代表)
JICA国際協力推進員(OFIX内) TEL06-6966-2400

世界も自分も変わるプロジェクト
募集中!
10/1~11/5
青年海外協力隊 シニア海外ボランティア

